

家康公の出世道。

耐えて学んだ17年。 家康公は浜松で何を学んだか、何を残したか。

0歳 誕生〜浜松以前 1542(天文11)年〜1570(元龜元年)

戦国の世に岡崎城(松平家)で家康は生まれた。6歳からお家間の力関係や策略によって尾張の織田家と駿府の今川家で人質時代を過ごし苦勞を重ねたが、武將としての英才教育を受けた期間でもあった。後に悲劇のヒロインとなる築山御前との政略結婚もさせられる。1560(永祿3)年5月に今川義元が桶狭間で討たれると、岡崎城に戻り、19歳で今川氏から自立した。その後、織田信長と同盟し、三河を平定していく中、松平から徳川に改姓した。1568(永祿11)年末遠江へ進出し、浜松に城(※1)を構えるようになった。

27歳 1568(永祿11)年 12月、徳川家康が遠江国引馬城へ入る。武田信玄が駿河へ侵入。

29歳 1570(元龜元年)年 6月、岡崎城から浜松城に移る。

31歳 1572(元龜3)年 12月22日、(西暦では1573年2月4日の立春の頃であって、現在の冬至の頃ではない。旧暦表記を現在の月と誤解されることがあり注意が必要)武田信玄と三方ヶ原で戦い(※2)、大敗する。

33歳 1574(天正2)年 6月、遠江高天神城を武田勝頼に奪われる。

34歳 1575(天正3)年 5月、織田・徳川の連合軍、三河長篠の戦いで、武田軍を撃破。甲斐に戻った勝頼は、多くの人員を集めて武田軍を増強し度々、遠江に出陣した。家康も出陣して武田軍との戦いを続けていく。

38歳 1579(天正7)年 4月、家康の三男長丸(秀忠)誕生。

40歳 1581(天正9)年 3月、高天神城を奪還。遠江を平定する。

41歳 1582(天正10)年 3月、信長、甲斐天目山で武田勝頼を攻め滅ぼす。信長より駿河を与えられる。領地三河(三河・遠江・駿河)

43歳 1584(天正12)年 3〜4月、豊臣秀吉と小牧・長久手で戦う。秀吉と和睦し、家康二男の於義丸を養子(人質)として秀吉のもとに送る。領地五方国(三河・遠江・駿河・甲斐・信濃)

44歳 1585(天正13)年 閏8月、徳川軍が真田昌幸の信濃上田城攻撃に失敗。11月、重臣の石川数正、家康を離れ、秀吉の家来になる。

45歳 1586(天正14)年 5月、秀吉の妹朝日姫と結婚。10月、秀吉の母大政所を人質として岡崎に迎え、家康は上洛し、大坂城で秀吉に臣下の礼をとる。12月、駿府城に移る。

62歳 1587(天正15)年〜1616(元和2)年 浜松以降 その後、家康は秀吉の命令に従い、関東に移っていく。三河・遠江・駿河・甲斐・信濃の五方国から「伊豆・相模・武蔵・上野・上総・下総の関東六方国」への国替えである。しかし、秀吉が亡くなり、前田利家も死ぬと家康のペースに。分裂する豊臣家に策略を加え、大坂城に乗り込み着々と天下人への階段を上る。そして「関ヶ原の戦い」で家康は勝利。1603(慶長8)年、征夷大将軍となり江戸幕府を開く。家康62歳。その後の大坂の陣で豊臣は滅び、戦国の世は終わりを告げる。



家康公に
学ぶのじや

やまかの源流 Vol.2 家康公が残したものの、

徳川家康公の75年の生涯のうち、29歳から45歳までの17年間を浜松で過ごしています。その多くは、ひたすら戦いの日々でした。家康がこの地で何を学んだのか —
いま、あらためて家康公の足跡をたどってみませんか。そこには家康公が残した「出世の街・浜松」の道しるべも見つかるはず。彼の歩んだ道は今に通じているのだから。



浜松時代の家康公は、本当の戦い、自分との戦い、家族との戦いという最大のプレッシャーの中を生きた時期であった。青年から壮年までを過ごし「家康」という人間が成形され、三方ヶ原の戦いをはじめとする多くの戦いを経験し、戦法を学んだ。覚悟を決め、粘り強く生きた天下統一への大きなステップ、出世への力を養った時代と言える。

三河から来たよそ者に、浜松の農民や武士が年貢を納め、戦に協力したのは、家康公の人となりや戦いぶりを認め、受け入れたからではないのだろうか。それは後に、浜松時代の家康公の敗戦や悲劇が肯定的に語られたり、ユークなエピソードとして語り継がれたりしているところに見てとれる。

家康公が残した家康像 — 「思慮深さと律儀さ」と行動力」と彼の創った東西の文化が行き交う城下の醸し出す自由な風土は、浜松に生まれ育った者の気質となり、よそ者には居心地の良さとなった。それこそが出世の街の源流という家康公の置き土産なのではないだろうか。

2015年に徳川家康公没後400年を迎えようとしている中「出世大名家康くん」が誕生し、市民に受け入れられ、愛されている姿を見ると、そう思えるのも不思議ではない。

※1 はじめ家康は古代の遠江の国府にあった見附(現在の磐田市)に城を築きかけたが、徳川の本国三河や尾張の織田信長との連携を考えると、天竜川を背にすることは戦略上よろしくないということで浜松に居城することを決めた。現在、浜松元城町東照宮のある場所の引馬城を含めて南西に城域を拡大して新しい城を築いた。

※2 家康より二十歳以上年上のいさのベテラン武田信玄は、浜松城に向けて二俣城から南下しながらも急に三方ヶ原の台地に登り三河方面に急ぐ格好を見せた(おびきだし作戦)。血気盛んな家康がプライドを傷つけられたからとも、信長との同盟上、浜松で信玄を食い止めようとしたためとも言われているが、三方ヶ原に飛び出していた。

※3 家康の正室(正式な妻)築山御前は、今川一門の血を引き、信長はその仇にあたり家康・信長の関係に不満があったと言われる。敵方の武田方に通じているとの疑いがかけられ、殺された。同様に、家康の長男の信康も天竜二俣城にて自刃。家康が信長との同盟関係を維持するため家族が犠牲になった悲劇。